

# WITH LIFE

共に生きる

2018  
ウィズライフ  
第48号

テーマ  
発達障がいを知り支援する



## 私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団  
理事長 土屋 公三

### WITH LIFE 第48号 目次

#### 特集 発達障がいを知り支援する

- 4 対談 発達障がいへの理解を深め、共に歩んでいこう  
「おがる」センター長 西尾 大輔さん  
「パン工房ひかり」 岡崎 詩織さん
- 10 家族の取り組み アスペルガー基地みらい
- 12 事業所の取り組み ふれあいきのこ村

#### 14 明るいフクシ探検記

札幌市地域活動支援センター「アンナブルナ」

#### 16 生きがい空間 探訪

江別市 地域共生ホーム「てまりの華」

#### 18 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2018年11月1日発行

発行人／土屋公三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰

●取材・文／大藤紀美枝

●写真／酒井伸一

●レイアウト／若井理恵

●表紙イラスト／佐藤正人

●題字／須田照生

【印刷】株式会社須田製版

我らサポーター ④

木村

勇市さん (79)

株式会社キムラ会長  
株式会社ジョイフルエーカー代表取締役会長  
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団理事



店内を巡りショッピングカートを整頓。ジョイフルエーカー大森店（江別市）・資材センターにて

写真／酒井伸一  
取材・文／大藤紀美枝

住宅資材の卸売会社、系列ホームセンターなど、  
発信・提案する企業を率いて、およそ半世紀。  
木村勇市さんが今、ホームセンターに反映するのは、  
自ら買い物をしてみて感じる不満や不便の解消。

「年をとったから若い人に買い物を頼む…。  
それじゃつまらないでしょ。」

高齢の方にこそ買い物を楽しんでいただきたい。  
カートを歩行器代わりに店内を回遊すると、  
適度な運動になり、気晴らしにもなると思います」

「80歳のお客さま」の目線で

レイアウトされた店内は、通路が広く  
ベンチで休み休み買い物ができる自遊空間。  
ペット同伴OKで、専用カートも用意している。

「お客さまの喜びが私たちの喜び。  
店でカートを整えながら死にたい」  
そう生涯現役を宣言する木村さん。  
目標の「107歳」まで働くために、  
足腰の鍛錬を欠かさない。



現場スタッフの声を聞き、  
80歳目線の  
アイデアを伝える

対談

# 発達障がいのある人が安心して暮らせるよう 障がいへの理解を深め、共に歩んでいこう

発達障がいのある人や、その家族は、さまざまな困難を抱えて生活しています。周りから見ても、障がいばかりに

共には、札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」に西尾大輔センター長を訪ね、発達障がいへの理解を深める取り組みを探りました。

取材・文／大藤紀美枝

## 災害時こそ 適切な支援が必要

——地震（9月6日胆振東部）からまだ三日。余震が続く中、お二方にご協力いただき、恐縮です。

札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」センター長  
西尾 大輔さん  
社会福祉法人さっぽろひかり福祉会  
ひかり工房「パン工房ひかり」製造担当  
おかしき  
岡崎 詩織さん

西尾 いえいえ。ここ「おがる」も自宅も、物が倒れるようなことはありませんでした。岡崎さんのお宅は、いかがでしたか。

岡崎 うちはマンションの8階なので、物が落ちました。

めちゃくちゃになった部屋の  
中で、どうしようと思いまし  
た。あんな大きな揺れは初め  
てだったので、ただただ怖  
かったです。

西尾 何かから手をつけてよい  
か、わからない感じでしたか。

岡崎 はい。私は頭が働かな  
い状態で、母がラジオを聴い  
て対応してくれました。

西尾 お母さんが情報を整理  
してくださったんですね。発  
達障がいのある人は、情報を  
整理して計画を立てるのが、  
あまり得意ではないことがあ  
りますね。具体的に「こうい  
う風によつて」と言われれば、  
「ああ、わかった」って、で  
きる人が多いですけど…。  
周囲の人には大事な情報をう  
まく伝えるスキルが求められ  
ます。



「おがる」は「ゆい」の2階に開設。センター長の西尾さん（右）を訪ねた岡崎さん（左）



発達障がいの人たちは、モノやコトに一たび注目すると、注目の度合いがどんどん強まっていく傾向があるの

で、不安もより大きくなってしまします。変化に対応することが苦手な人が多いので、家が停電・断水で避難所に行くしかないとなったとき、その臭いだとか、ウロウロする人が目に入ること、特徴的な症状が際立つことがあるかもしれません。

発達障害情報・支援センターの「災害時の発達障害児・者支援について」の北海道版リーフレットが、さつきで上がったところで、ウェブサイトでも公開していますから、ぜひご覧いただければと思います（8ページ参照）。

## 誤解され否定され 苦悩した日々

岡崎さんは、今年8月、札幌で開催されたヤマト福祉財団の障がい者の働く場バ

ワーアップフォーラムで、就労継続支援A型事業所（※1）での就業について発表されたそうですね。

岡崎 はい。私が話すことで発達障がいへの理解が深まるなら、思い切ってお引き受けしましたが、やはり緊張しました（苦笑）。私たちアスペルガーの人って、見た目は障がいかわからないんですよ。知的な遅れはなく、IQも人並みにある。そのため、周囲の理解を難しくしているところがあると思うんです。西尾 確かにそうですね。

岡崎さんは、お子さんのころ、どのようなことで困りましたか。

岡崎 相手を怒らせたり、傷つけちゃったりすることがあって、なぜそうなるのかわかりませんでした。学校の先生には、「もつと人と合わせる努力をなさい」と言われました。

西尾 えっ、そんなこと言わ

れたんですか。

岡崎 「わがままを言うのも、いい加減にしろ！」とどなる先生もいました。今だったら、「どこにどう合わせればいいのか、わからなかった」とわかるんですが、小学生のころは、戸惑うばかりでした。当時、自閉症も発達障がいも聞いたことがなかったですし、周りの人も知らなかったです。小学校から高校まで、ずっと普通学級でした。

西尾 岡崎さんが小学生だった今から20年ぐらい前は、まだ発達障害者支援法（2004年制定）もなく、発達障がいなどのようなものがない、一般には知られていなかったと思います。

知的障がいがあると、「特別支援学級あるいは特別支援学校で」となりますが、普通学級に知的障がいのない発達

障がいの子がいても話題には上らなかつたんじゃないでしょうか。ですから岡崎さんの悩み、よくわかります。当時は、発達障がいについて正しい情報を得ることが難しい親御さんも多く、お子さんの行動に対して、ただただ悩んでいた方もいらつしたよう

です。岡崎 そういう話、母から聞いたことがあります。

西尾 そうした中で、発達障害者支援法の施行は、大きな変化をもたらしました。同法の中で発達障がい支援センターができ、当初は知的障がいを併せ持った自閉症の人の相談が多かったのですが、徐々に知的障がいのないタイプがいることが広まり、今日では発達障がいのある人において、7対3で知的障がいのない人の方が多くなっています。

## 発達障がいとは…

脳機能の発達が関係する障がいで、主に「広汎性発達障がい」「注意欠陥多動性障がい」「学習障がい」があり、いくつかの発達障がいの併存や知的障がいの併存もある。

その特性が目立つようになる時期は、子どものころ、思春期、青年期など、人によって異なり、その数は、文科省が2012年に小中学校教諭を対象に行った調査結果の数値・6.5%が一つの目安になっている。

- ◎広汎性発達障がい（自閉症、アスペルガー症候群など）  
他人とのコミュニケーションや社会性に難があり、興味や関心が狭く特定のものにこだわる。記憶、芸術、研究などに才能を発揮する人もいる。
- ◎注意欠陥／多動性障がい（AD／HD）  
注意力に欠け、落ち着きがなく、衝動的な行動をとるなど、年齢などに不釣り合いな行動をとる。
- ◎学習障がい（LD）  
聞く、話す、読む、書く、計算するなどのうち、特定のものの習得と使用に難がある。



西尾 大輔 (にしお・だいすけ)

大学を卒業後、道内の福祉施設に勤務し自閉症の人と出会ったのを機に、特別支援学校の教員に。10年間の教員生活を経て、2012年から札幌市自閉症・発達障がい支援センターに勤務。支援事業に取り組み、依頼に応じ講演も行っている。41歳。

## 発達障がいをも一つの文化と捉え、「得意」を伸ばす環境づくりが必要だ。

つらくて苦しくて

相談窓口へ電話

——広汎性発達障がいのある人の中には、記憶力などが優れている人がいますが、岡崎さんはいかがですか。

岡崎 自覚はなかったですが、小さいころから本を読んだりテレビを見たりしたら、その内容を細かいところまで覚えていました。知り合いに本のあらすじを説明し、1回読んだだけでわかって、驚かされたことがあります。

西尾 ほか。ちなみに本は、ど

んなジャンルがお好きですか。

岡崎 高校のころは、今でいうライトノベル系の小説が好きでした。詳しく覚えていて、クラスメートに「すごい」と言われたけれど、「おもしろい」と思うことが必ずしもみんなと一致せず、場をしらけさせたことがあります。アニメやまんがも好きで、カラオケではそつち系を歌います。

——いろいろな才能をお持ちですね。

岡崎 ありがとうございます。でも、小中高、専門学校

を含め、どこへ行っても周囲の人たちと、うまくいきませんでした。ナルコレプシー(強い眠気の発作を起こす睡眠障がい)を併発して、突然居眠りをしてしまうことがあり、周りの目がますます厳しくな

って、家族ともうまくいかず、学校の先生からは問題児扱いされる感じでした。実行する勇氣はなかったけれど、「消えたい」「死にたい」と考えるようになりました。

西尾 幾つぐらいのときですか。

岡崎 高校から専門学校にかけてですから、17歳から20歳

ぐらいですね。で、あるとき、「札幌こころのセンター(札幌市精神保健福祉センター)(※2)」というところがある聞き、本当につらくて苦しくて、「もうダメ」と思ったとき電話しました。

西尾 そうでしたか。

岡崎 相談員の人「何でも話してください」と言ってくれたので、私は「生きていくのがつらい」と言っていて泣いていました。黙って最後まで聞いてくれて、「こういうとき、こういうことがありませんでしたか」と質問されたので、「はい」と答えたなら、「発達障がいの疑いがあるので、受診してみますか」と言われ、少しでも理由がわかればと思

い受診しました。そしてアスペルガー症候群と診断されました。20歳のときです。

西尾 診断が下りて、どう思

いましたか。

岡崎 ほっとしました。それまで、「頑張りが必要ない」とか、「わがままで」とか言われ、責められ否定されてばかりでしたが、いろんなトラブルがアスペルガー症候群の特性に由来したものだだったと

西尾 なるほど。で、ナルコ

レプシーの方はいかがですか。岡崎 前は薬を飲んでいましたが、今は薬を飲まなくても大丈夫です。

## パン工房と出会い働く自信と喜びを実感

——専門学校では何を学んだのですか。また、希望した職業は。

岡崎 本が好きなので、印刷や編集を学びました。でも、ナルコレプシーがあったこともあり、思うような結果が出せませんでした。卒業後は、レンタルショップやコンビニなど、何力所かでアルバイトをしました。

西尾 スゴイところばかりですね。やることはいっぱいあって、覚えなければならぬことが多い。それに、覚えても位置が変わることかありますよね。

岡崎 そういうのに、うまく対応できなくて苦労しました。デスクワークの仕事では、ナルコレプシーが出て、ひんしゆくを買ってしまいました。当時の私としては、どう考え、何をしたいのかかわりませんでした。

西尾 それでも社会に出続け



岡崎 詩織 (おかざき・しおり)

専門学校在学中、アスペルガー症候群と診断され、精神障害者手帳を取得。卒業後、レンタルショップなどでのアルバイトをするも、うまく対応できず退職。2011年にひかり工房と出会い、パン作りに挑む。15年に就労継続支援A型に移行。31歳。

私のことを知ってもらいたいから、アスペルガーであることを伝えていきます。

たんですよね。

岡崎 はい。うつにもなりましたが、働かなければならぬと思っていました。

西尾 ご実家で暮らしているんですよね。何でそれほど強く働かなければならないと思っただのですか。

岡崎 母は「卒業したんだから、働きなさい」と言い、お小遣いをストップしました。働いてお給料を得るということにおいては、子どもころから母が頑張っている姿を見てきたので、当然のことだと思っていました。

西尾 なるほど。

岡崎 今思えば、高2の時からターニングポイントで、その辺りから精神状態が不安定になり、学校へ行くのが、すごくつらくなりました。

西尾 その時、お母さんは、何と言いましたか。

岡崎 小中の時は、「どうしても行きたくないなら、行かなくてもいい」。高校になったら、「今日はいいいけれど、明日は行きなさい。義務教育ではないんだから」と言いました。高校時代は、母と衝突しましたが、基本的にいつも

味方でいてくれました。

それから、幼いころ、父方のおばあちゃんに「自殺だけは神様がお許しにならないし、家族が悲しむから絶対してはならない」と教えられたことが心に残っていて、支えになりました。

西尾 今日の岡崎さんがあるのは、おばあちゃんも含め、お母さんの子育てがよかったんだと思います。本当に……

——パン工房との出会いについて話していただけますか。  
岡崎 「就職したいけれど、

今までアルバイトしたようなところでは、勤まる自信がない」と、こころのセンターの人に相談しました。

そうしたら、パン工房を教えてください、見学に一緒に行ってください。みんなきびきび働いているのを見て、雰囲気の良い職場だと思いました。「岡崎さんさえよければ、明日からでも体験できます」と言われ、「やってみます」と即答したんです。

西尾 よい出会いでしたね。  
岡崎 はい。アルバイトで立ち仕事を体験してきたので、立ちっぱなしも苦になりませんでした。

西尾 現在、どんなお仕事を担当しているんですか。  
岡崎 こね上がったパン生地



パン工房でパン生地の成形作業をする岡崎さん。「成形が速くて、きれい」と高い評価を得ている。



を、それぞれの大きさに分割して成形する作業です。パン工房に入ってから7年経ち、2、3年前から人に教える立場になりました。技術的なことを言葉で説明するのは難しいですが、「わかりやすい」と言ってもらえるとうれしいですし、人に教えることで自身の復習にもなっています。この仕事に性に合っているし、仕事仲間とのコミュニケーションもとれ、お客さまから「おしいかったよ」と手紙をも

※2 札幌市中央区大通西19丁目WEST19 4階

TEL. 011-622-0556 (月～金、9時～17時)

——岡崎さんは、札幌こころのセンターに電話を掛け、人生が開けました。「おがる」に相談する人の中にも、そういう人が多いではありません

——個性を生かす  
さまざまな役割



初対面ながら共感し、話しに熱がこもる西尾さんと岡崎さん。

んか。  
西尾 相談窓口につながることで、前進できることもありませ。「おがる」は、札幌市民を対象に、診断のあるなしにかかわらず、発達障がいに関するあらゆる相談を受け付けています。  
私たちは、相談に乗ると言うより、情報整理と考え取り組んでいます。たくさん持つ

——発達障がいのある人が困難な状況に置かれられないようにするには、何が求められますか。  
西尾 発達障がいのある・なしに関わらず、「地域の人みんなが、違ってもいいよね」という感覚という文化を持つとよいと思います。かなえるためにやるべきことは、意外と単純です。その人がうまくできることを、無理なくできるように、周囲が応援すればいいんです。  
苦手なところに着目して手助けしようとしても、うまく

ている情報が整理できていなかったり、大事な情報にアクセスできず関係のない情報だけ持っていることがあるからです。情報を整理して、「今からできることは、こういうルートがあります」と幾つか提示して、ご本人が選ぶのを手伝っています。それが多くの人と違うルートである場合、ためらう人もいますが、「自分の道としてオッケーですよ」と後押しします。  
岡崎 そういうアドバイスに救われる人が、たくさんいると思います。自分の話を聞いてくれる人がいるだけで安心します。

## 発達障がいのある人たちへ・支援のポイント

### 家庭で、学校で、職場で…

#### 見本を提供

[例]  
ここは5センチの厚さに

完成度がアップ

#### 期限を明確に

[例]  
今日の午後3時までに

集中力が倍増

#### 感じ方の違いに気づく

[例]  
あなたは甲高い声が苦手なのね

わかり合える

#### 相談相手の確保

[例]  
一緒に考えましょう

心配・不安の緩和

わかってくれて、  
ありがとう



気づかなくて、  
ごめんなさい



### 災害時は特に気づかいを

#### 変化が苦手

穏やかな口調で  
具体的に指示する

[例]  
この場所に座ってください

#### 感覚が過敏

大勢の人がいる  
環境が苦痛

[例]  
部屋の角や別室、あるいはテントの使用

#### 聞き取るのが苦手

説明の仕方を工夫

[例]  
文字や絵、実物を使って説明する

#### 見とおしの立たないことへの不安

当面の日課の提案や活動の指示

[例]  
筆記用具と紙、ゲームなどを提供。清掃など簡単な作業を割り当てる





## 市内の発達障害者支援センターの相談窓口

北海道発達障害者支援センター「あおいそら」  
函館市石川町90-7 2階 TEL.0138-46-0851

北海道発達障害者支援道東地域センター「きら星」  
帯広市西25条南4丁目9 TEL.0155-38-8751

北海道発達障害者支援道北地域センター「きたのまち」  
旭川市宮前1条3丁目3-7「おびった」内  
TEL.0166-38-1001

## 札幌市の主な相談機関は…

市障がい福祉課発行のガイドブックで詳しく紹介しています。

※冊子希望者は、市障がい福祉課(TEL.011-211-2936)、各区役所保健福祉課へ。札幌市のウェブサイトからダウンロード可。



## 発達障がいのある人を支える「虎の巻」

札幌市では、発達障がいのある人が社会に出て活躍できるよう、支援ポイントをまとめた「虎の巻」を発行し配布しています。

2009年に就労支援プロジェクトチームを結成し、市精神保健福祉センターの精神科医や発達障がい当事者の協力を得て、「職場」「暮らし」「学校」「子育て」など「虎の巻シリーズ」として5編制作。いずれもまんが仕立てで、わかりやすいと好評です。

※冊子希望者は、市障がい福祉課(TEL.011-211-2936)、各区役所広聴係へ。札幌市のウェブサイトからダウンロード可。



## 札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」

(札幌市東区東雁来12条4丁目1-5  
札幌市自閉症者自立支援センター「ゆい」2階)

発達障がいのある人への支援などを目的とした専門機関で、情報提供を中心に、本人やその家族と支援機関がつながるためのサポートを行っている。各支援機関への助言、研修などによる支援者の育成、学びの場の提供などのほか、相談も受け付けている。

◎本人・家族対象、電話相談受付／TEL.011-790-1616  
火・水・木(祝日をのぞく)、10時～16時  
必要に応じ来所相談(要電話予約)

※支援者用／TEL.080-3694-1950

## 社会福祉法人さっぽろひかり福祉会「ひかり工房」

(札幌市東区北33条東14丁目5-1)

主に精神障がいのある人の所得保障と就労支援を目的とし、2003年開設。施設形態は就労継続支援A型・B型・移行事業。利用者数35名。地元新道東町内会を中心に組織された「ひかり福祉後援会」に支えられ地域密着型の事業を運営。同設する「パン工房ひかり」のパンや焼き菓子の本物へのこだわりは、商品価値を高めるとともに、労働価値を高めている。

◎問い合わせ／TEL.011-733-3774(9時～17時30分)

※パン工房ひかり／TEL.011-733-3784

営業時間：9時30分～18時、定休日：日・祝日等



パン工房「ひかり」

いかなることがあります。「この人、これが得意だね」という方向で集団を作ると、強い集団になります。そうしたやり方の一つが、ひかり工房です。パン作りの行程に、それぞれ得意な能力が発揮できるように配置していますよね。

岡崎 そうです。

作りがうまい人などが必要で、各人の個性があるのに、世の中のいたるところで同じ能力を求めようとするから、おかしくなるんじゃないでしょうか。

——長所を見つけ、伸ばすには。

西尾 よいところを見つけるのがうまい人が、チームの中に一人いればいいわけで、それが難しいことではないと思います。また、業務に習熟してくるとマネージメントする役割に就くことになり、それが、発達障がいのある人はマ

ネージメントが得意ではないことが多い、役職に就けないでいることがあります。すると給与が上がりにくいこともあるようです。給与の面でもふさわしい評価が得られるようになっていってほしいと思います。

岡崎 そうあってほしいです。独り立ちできるように、これからは頑張っていきたいと思っています。

(2018年9月9日  
札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」にて)

家族の取り組み アスペルガー基地みらい（札幌）

# 発達障がいの青年の未来が開けるよう 父母たちが手をつなぎ支え合おう

発達障がいのある人の父母が立ち上げ活動している家族の会が道内各所にある中、青年期になってから発達障がいと診断された人たちの家族が集い活動している「アスペルガー基地みらい」を訪れ、メンバーの方々に、その取り組みについて伺いました。

## 悩み事を隠さず 話せる場を求めて

「アスペルガー基地みらい」は、札幌を拠点に活動していますが、月1回の例会に道南、道北、道東と、遠方から駆けつける人も少なくありません。

「抱えている悩みや問題は人それぞれですが、深い悩みを持つている者同士だからこそ、分かり合える部分があります。ため込んだ愚痴を吐き出す場、それが私たちの例会です。みなさん、雨が降ろうが吹雪であろうが頑張ってきてください」と同会代表の高田法子さん。

「地元ではしゃべれないけれど、離れた札幌だからしゃべれる」と言う人もいて、発達障がいのある人とその家族を取り巻く環境の一端が伺われます。開設11年目の今、会員は104名。広汎性発達障がい

（自閉症、アスペルガー症候群など）のお子さんを持つ50代、60代の人々が最も多く、70代、80代の人も。役員8名、監査2名体制で情報の収集と会の潤滑な運営を図っています。

胆振東部地震後、取材に伺った9月19日の例会では、冒頭の近況報告で「揺れたけれど、思ったより動揺しなかった」「親を心配して家まで自転車であつてくれた」など、「地震をとおして、うちの子の新たな一面を見た」という声が聞かれました。

## 青年期になって 発達障がいと診断

同会の開設のいきさつを高田さんに尋ねると、「息子は短大を卒業後、就労に困難があり、札幌市精神保健福祉センター（札幌こころのセンター）に通いました。

当時そこにあつた家族の会に参加していた数名が、今後とも連携を」と2007年に新たな家族の会を作ったんです。悩みや苦しみを包み隠さず話せる場を確保しておきたいという思いでした」

高田さんの長男・慎也さんは、高2のころ、いじめに遭ったことがフラッシュバックするなど幻覚や被害妄想が始め、高3のときに学校から精神科の受診を勧められ、19歳になって高機能自閉症の診断が下りました。

慎也さんは現在31歳。同年代の高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群の人の多くは、思春期から青年期になって特性が強くなり、就労が難しい状況に置かれるまで、発達障がいとは気づかれずにいました。

世の中全体が発達障がいへの理解が浅く（もしくは知らず）、「取り掛かるのに時間がかかる」「周囲とコミュニケーションを取るのが苦手」「興味のあるモノ・コトへのこだわりが強い」といった特性が見られても、学習において問題がないため、本人も親御さんも学校の先生も、発達障がいに気づかなかつたケースが多いと思われま



例会でそれぞれの近況を報告

「特性が深刻化して、相談機関に行き、精神科などを受診。発達障がいとわかつたけれど、診断をどう受け止めるか、加えて周囲には知られたくないということから、さらに悩んだ」とも聞きます。「診断が下りた当初は、周囲に隠してしまいがちですが、私の場合、次第にオープンに話せるようになりました。すると気持ちラクになり、親子関係もよくなっていきまし」と高田さんは自らの経験を語ります。

## 一人で抱え込まない 話して重荷を下ろす

発達障がいの特性が強くとらると、当事者も家族もつらく



語らいの中のひとコマ。中央が代表の高田法子さん

## 広汎性発達障がいのある青年を支える家族の会『アスペルガー基地みらい』

青年期になって初めて「広汎性発達障がい」と診断された人たちの父母により2007年に設立。月1回、例会を開き、広汎性発達障がいのある青年たちが日々抱えている問題や家族の悩みを語り合うとともに、情報交換を行い、青少年カウンセリンググループの協力で個別カウンセリング(無料)を実施。会報を毎月発行し、例会や活動の報告を行い、イベントや図書の紹介なども行っている。

- ◎入会対象：アスペルガー症候群、高機能自閉症など、広汎性発達障がいと診断された青年の家族
- ◎例会：毎月第3水曜日 13時～16時(会場は市民活動プラザ星園など)
- ◎会費：入会金1,000円、年会費3,000円
- ◎問い合わせ：TEL.011-893-2227(高田)、011-584-7203(中丸)

## アスペルガー基地みらい『当事者の会』

アスペルガー基地みらいが、広汎性発達障がいの青年を対象に、気軽に集い語り合える場を用意。月1回開催し、参加費は無料。希望者は開催日に会場まで。青少年カウンセリンググループの協力で、個別カウンセリング(無料)を受けることができる。

- ◎開催日：毎月第4水曜日 13時～16時(会場は市民活動プラザ星園など)
- ◎問い合わせ：TEL.011-893-2227(高田)、011-584-7203(中丸)



## 成長に合わせた切れ目のない支援のために『サポートファイルさっぽろ』

札幌市では、子ども一人一人の発達や成長の情報を記録して一つにまとめ、保護者や本人、学校や医療機関、療育機関などの共通理解を促すために、「サポートファイルさっぽろ」を作り・使うことを推奨。札幌市発達障がい者支援関係機関連絡会議ネットワーク作り部会では、同ファイルの作り方・使い方をまとめ、希望者に配布している。

- ※冊子希望者は、市障がい福祉課 (TEL.011-211-2936)、各区役所保健福祉課へ



「この子はこういう子なんだと、そのまんま受け入れていきます」「発達障がいの息子のお蔭で、こうしていっぱい友達ができ幸せです」と笑ったり、涙ぐんだりしながら本音で語らうお母さんやお父さんたち。お子さんを支え、自身のあるようを問い続けてきた方々の深みのある言葉に感じ入りました。

苦しいときが続きます。一人で重荷を背負い、追い詰められた経験のある親御さんが、「この子を殺して、自分も死のうと思ったことがある」と話すのを、これまで何度か聞いたことがあります。

同会のメンバーは、そうした苦しみがわかるだけに、互いに本音で語り合い、親身になってアドバイスをします。役員の中には、「追い詰められた状態のときにここを知り、電話を掛け、そこで気持ちを

しっかり受け止めてもらいました。例会に参加して生の声を聞いて、ほっとしましたし、ここでしか得られない情報があります。ぜひ一度、来てみてください」と話す人も。例会に母娘で出席していたHさんは、それぞれが当事者。娘さんは22歳のときにアスペルガー症候群と診断され、お母さんは51歳のときにAD

／HD(注意欠陥/多動性障がい)と診断されたそう。「互いに当事者だから、思っていることをストレートに言い合えます」とお母さん。「母は深いところで私の気持ちを理解してくれるので、何でも話せます」と娘さん。例会に参加することで、さまざまな情報を得、発達障がいそのものへの理解も深まっているようです。

活保護の受給も可能です。発達障がい当事者と福祉関係機関を結ぶにしても、年金などを申請するにしても、幅広い知識が必要ですが、同会ではさまざまなネットワークを生かして集めた情報を基に、相談機関を紹介したり、経験に基づくアドバイスをを行い、当事者および家族の不安解消に努めています。

## 当事者の生活の確立を目指しアドバイスも

発達障がいの特性の現れ方や本人の希望、家庭環境など

生計の面では、障害年金における発達障がいの認定基準をクリアし審査がとおれば、障害年金が受給でき、状況により生

メンパーはおおむね50代以上。みなさん子育て、診断に至るまでの過程、さらにその後において、戸惑いつつ学校、病院、相談機関、支援機関などと関わってきただけに、家族と教育・医療・福祉機関の連携の大切さを痛感しています。そういった点においても市が推奨する「サポートファイルさっぽろ」が期待される

事業所の取り組み ふれあいきのこ村（石狩市）

# その人ができることを仕事として設け 力を合わせ質の高い商品を生み出す

「第14回北海道きのこ品評会」で最優秀賞を手にした「ふれあいきのこ村」は、社会福祉法人はるにれの里が運営する多機能型事業所です。発達障がいのある人たちが、どのような環境で、どのような仕事をし、成果を上げていくのか、シイタケ栽培の現場を訪ねました。



「ふれあいきのこ村」の事務局前。窪田篤人所長（左）と池田秀敏さん（右）

## 農福連携を先駆け シイタケ栽培に挑戦

近年、担い手不足に悩む農家と障がいのある人に働く場を提供しようと考える福祉事業者を結ぶ、「農福連携」が目ざれています。自閉症の人たちをはじめ、発達障がいのある人たちの福祉的就労の場として事業所を立ち上げ、菌床シイタケの栽培・販売を行う「ふれあいきのこ村」は、その先駆けと言えるでしょう。

窪田篤人所長と当初からシイタケ栽培に携わってきた事業統括管理者の池田秀敏さんに、これまでの取り組みを伺うと――。

が手を挙げ、同施設の利用者の親御さんの発案でシイタケ栽培に着手したとのこと。

「当事業所は、厚田はまなす園など入所施設を卒業した人がグループホームなどで暮らし、地域で働ける場としてスタートしました」と窪田所長。

「日本財団さんと当時の北石狩衛生施設組合（合併前の5カ市町村）さんから支援を受け、2003年にハウス3棟と管理棟、利用者の住まいの場としてグループホーム2棟が完成しました。それまで5年間、はるにれの里の別事業所のハウスで菌床シイタケ栽培に挑戦し、職員と利用者さんが作業訓練を繰り返し繰り返し行いました」と池田さん。

現在、38名の利用者が各々入居するグループホームから送迎用バスで通所し、1日8時間（実働6時間）、週休2日のシフトの中で就労しています。

## 日々千個の菌床を ひたすら並べる、運ぶ

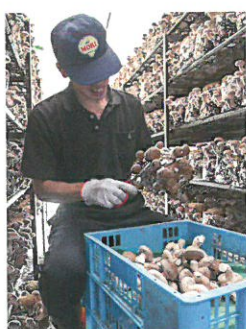
自閉症の人は、対人交流およびコミュニケーションの障がいや、こだわり行動などがあり、重度の場合、特性が一段層強く現れるようです。



シイタケ菌を培養中



まだ小さいシイタケ



丁寧に収穫（写真は職員）

そのため、就労を実現するには多くの困難が伴いますが、同事業所では重度の自閉症の人でも黙々と自分の仕事に勤しんでいます。

「重度自閉症の人の就労をかなえるために、まずしなければならぬのは、その人に



専用袋には鮮度保持素材を使用



Aクラス・Lサイズの商品

合った仕事を設けることで  
す。うちでは、運ぶ、並べる  
など、数を数えたり、判断す  
ることができなくても、毎日  
反復することで習得できる仕  
事を用意しています。

同じ作業が続くと嫌気がさ  
すものですが、自閉症の人の  
多くは、同じ作業の反復を苦  
にすることなく続けることが  
できます」と窪田所長。

菌床シイタケ栽培は、原木  
を削って砕いて殺菌した上で、

固めて菌床を作り、シイタケ  
の菌を植えることから始まり  
ます。その作業は系列の事業  
所で行い、同事業所では菌床  
を袋に入れて培養した後、袋  
から出して成長させます。

利用者は、「ハウスの培養  
棟の棚に菌床を並べる」「培  
養棟から生育棟に運んで並べ  
袋を外す」「菌床は2度使用  
でき再利用のため水に浸け  
る」「ハウスの床の清掃をす  
る」といった作業のうち、そ  
れぞれ得意な作業を担当して  
いますが、中には職人技を發  
揮する人もいて、膨大な量を  
扱う作業をみるみるこなして  
いきます。

「1日当たり300キロ収穫で  
きるよう管理しています。毎日  
約千個、新しい菌床が運び込  
まれ、各々持ち場で千個に対  
応しています」と窪田所長。

培養棟の菌床8個を籠に詰  
め、9籠まとめて台車で生育  
棟に移動するとき、その重さ  
は約90キロに。開設から15年  
経ち、当初は体力的に問題が  
なかった人も加齢に伴う腰痛  
の心配があるそうです。

### 高齢化にも対応 より働きやすく

同事業所で「生活介護サ-

ビス」を利用している人たち  
の多くは、ハウスの中の単純  
な作業に、また「就労継続支  
援B型サービス」を利用して  
いる人の多くは、シイタケの  
パック詰めに携わっています。

「利用者さんの6割が40代か  
ら50代。みなさん手加減する  
ことがないので、過労になら  
ないよう、職員全員が気を  
配っています。運搬系の作業  
をしている人には、腰痛の予  
防と緩和に腰ベルトをしても  
らい、より運びやすくする手  
段を考え随時取り入れていま  
す」と窪田所長。

機械化の推進も検討してい  
ますが、機械化により、その  
人にとつて、できる仕事がなく  
なってしまうことが懸念され、  
窪田所長も池田さんも5年後、  
10年後を見据えて、高齢化対  
策に智恵を絞っています。

その一方、シイタケの薄利  
多売の流れの中で生き残って  
いく戦略を立て、「質の向上  
はもちろん、福祉施設で作っ  
ているからという甘えは許さ  
れません」と窪田所長と池田  
さんは口をそろえます。

二人は、近隣をはじめ、全  
道のシイタケ生産者に教えを  
請い、利用者一人一人が、就  
労においてその能力を發揮

し、生産性が上がり、品質も  
向上する道探しに余念があり  
ません。

働くだけでなく、余暇をど  
う過ごすかも大事です。同事  
業所の利用者は、休みの日は  
虹が原地区のグループホーム  
群の中にある地域活動セン  
ターで、テレビを見たり、イ  
ンターネットをしたり、職員  
と談笑したり、それぞれ好き  
なことをして過ごしていま  
す。窪田所長の案内で、同施

設も見学しましたが、みなさ  
ん連れだってドライブ&買い  
物に出掛けたところでした。

重い障がいがあっても、自  
分の暮らしたいように暮らす  
——。ふれあいきのこ村を訪  
ね、当たり前のことを実現す  
るために、地域と連携し手厚  
い支援をする取り組みが、あ  
るところでは地道に、またあ  
るところではダイナミックに  
展開されていることを実感し  
ました。

## 社会福祉法人はるにれの里「ふれあいきのこ村」

石狩市厚田区聚富488-1 TEL.0133-60-3466

重度自閉症および重  
度知的障がいをはじめと  
した発達障がい児・者の  
ニーズに特化した、多样  
な機能を持つ「はるにれ  
の里」が、2003年当時  
の厚田村聚富に開設。



ハウス3棟で菌床シイタケを通年栽培

09年に就労継続支援B

型事業と生活介護事業を行う多機能型事業所に。入所施設からグ  
ループホームなど地域に移行した人たち(定員40名)が、職員らと共  
に菌床シイタケの栽培に取り組んでいる。

◎就労継続支援B型事業：年齢や体力などの面で雇用契約を結んで働く  
ことが困難な人に、軽作業などの就労訓練を提供。

◎生活介護事業：常に介護を必要とする人に、日常生活上の必要な支  
援や生産活動の機会などを提供。

◎多機能型事業所：障がい児通所支援および障がい福祉サービス事業  
のうち2つ以上の事業を一体的に行う事業所。福祉サービスには、生活  
介護、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型がある。

# 明るいフクシ 探検記



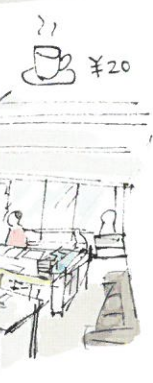
おじゃま  
します！  
文・イラスト  
伊藤千織

## 札幌市地域活動支援センター 「アンナプルナ」

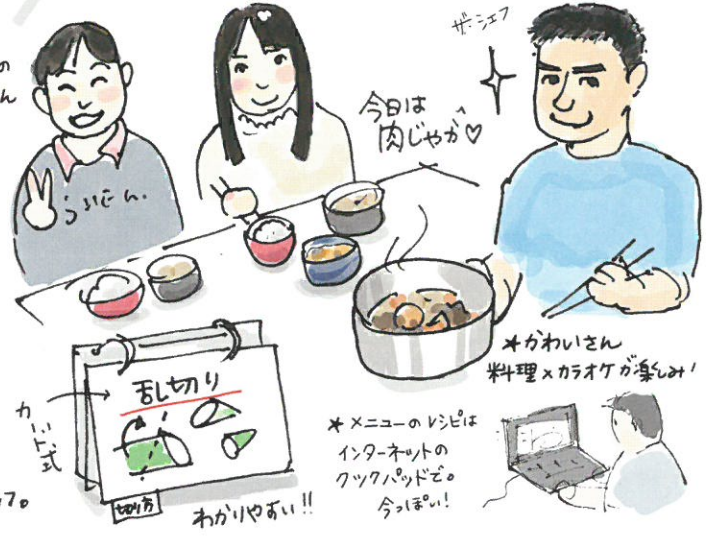


### 活動その2 余暇系活動 (定員4名) ひとり暮らしごはん

★「ひとり暮らししたい！」あなたに。  
×メニュー決めから、買い物・調理・  
もちろん試食に片づけまで、  
いっしょに楽しく料理しようぜ！



★生活支援員の小林さん  
元々は作業療法士、開業からのスタッフ。  
「ここぞ色々経験させてほしいです！」



★スタッフの  
吉田さん

★がわいさん  
料理×カラオケが楽しみ！

★メニューのレシピは  
インターネットの  
クックパッドで  
今っぽい！

人それぞれの発達障がい  
ちよつと変わったあの人、なんだか  
生きづらい私…。近年急速に関心の高  
まってきた発達障がい。

札幌市北区の「アンナプルナ」は、  
そんな発達障がいを持つ人のサポート  
に特化した地域活動支援センターだ。  
利用者の多くは、いわゆる高機能タイ  
プの自閉症スペクトラム障がいのある  
人。成人してから診断を受けた人も多  
く、その特性・個性、得意不得意も人  
それぞれだ。

活動プログラム参加を通して、将来  
働きたい、外の社会に出る練習・人と  
繋がりたい、自分の居場所がほしい、  
余暇活動を楽しみたい…。目的は  
さまざま。各々のペースでステップアッ  
プをめざすこともできる、ゆるやかな  
つながりの場だ。

見えないバリア「二次障がい」  
知的な遅れがなく外見からは判断で  
きない分、発達障がいには理解されづら  
い。幼少期からの叱責や否定的な評価・  
失敗体験、本人の努力に対し怠けてい  
るなどの誤解の受けやすさなどを通し、  
「自分はダメな人間」といったネガティ  
ブな自己イメージや自尊心の低さなど  
が醸成されてくる。

そうした情緒の不安定、うつ病、引  
きこもり、対人恐怖、不安障がい・気

凸凹  
大丈夫!

札幌市地域活動支援センター  
annapura  
SINCE 2011



さりげなく  
ココ! 2F

活動の1

### 作業系活動 商品製作部

今日は  
8名

\*同じ場で、それぞれ得意不得意に  
合った作業をものづくり。

\*石村さん  
週2回来てます。  
采月から飲食店の  
正規スタッフに!



2018年9月 annapura 発表表

9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30		

annapuraは登録制。  
利用者は好きな活動に  
自由に参加  
できます。

9:30-11:30  
作業  
13:00-15:00  
当事者研究  
[集休の予定]

\*毎月の予定表で  
プログラムをチェック!

\*ピアサポーターの3人は  
皆発達障がい当事者。  
お隣にある「相談室ほろりす」  
に所属しています。



\*ピアサポーターのいちさん  
「ここは新しいステップに行くための  
階段の踊り場の存在場所。  
楽しくやるのが大事!」by いち

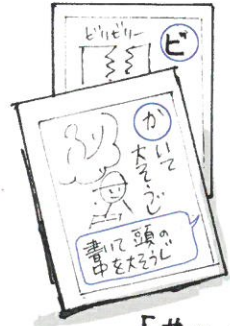


それぞれの発達障がいならではの  
「地味苦勞」を研究テーマに  
語り合う! がんばるぞう...

活動  
の3  
ゆるい

### グループ系活動 当事者研究

略して 当石研



\*発達障がいならではの小悩みを  
みんなのアイデアで苦勞をお助け



●社会福祉法人はるにれの里 札幌市地域活動支援センターアナルプナ  
札幌市北区北21条西5丁目1-32 梅ノ木ビル201号 TEL.011-707-7171  
<http://www.harunire.or.jp/annapura/index.html>

仲間とともに助け合う

そんな中で心強い支えになるのが同じような苦勞を抱える者同士のつながり、そしてピアサポーターの存在だ。

自身も同じ障がいを持つ専門員・ピアサポーターは、自ら同じような苦勞や体験を持つという、利用者に寄り添った目線からさまざまな支援を行い、信頼も厚い。

当事者同士が語り合う「当事者研究」は、それぞれの問題や苦勞を自分のことばで外に出し、客観的に眺め、時にはユーモアを交えて仲間と共有しながら、自分と苦勞を切り離す自助プログラム。そこには、生きづらさの困難を笑いに変え、仲間と一緒に乗り越えようとするポジティブな強さがある。

そもそも人はひとりひとり違う。自分を知り、自分らしさを生かせる場と仲間がいれば強くなれる。それは同じことなのだ、障がいがあるうとなかる。

分障がいなど、先天的な発達障がいから起因する、後天的な様々な問題を「二次障がい」という。

発達障がいの特性による生活の困難さやコミュニケーションスキルなどに対する工夫や支援の大切さはさることながら、傷ついたところの問題は見えないだけに深く厄介だ。

●江別市  
地域共生ホーム  
「てまりの華」

人とふれあい、役割を持つ場に見つける、自分の居場所

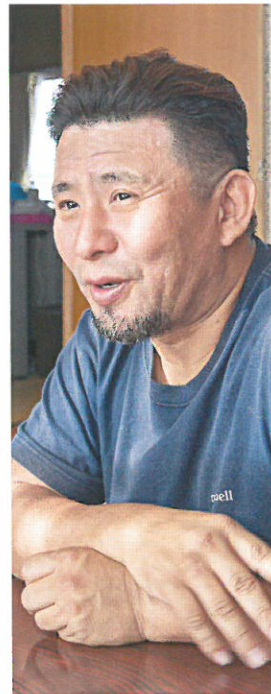
取材・文／大藤紀美枝



会話が弾み、リビングはいつもにぎやか

高齢者と子どもたちが一緒に楽しく過ごす

「じいちゃんも、ばあちゃんも、赤ちゃんも、子どもたちも、障がいがあっても・なくても、一緒に楽しく過ごすサービス」をうたい、2016年にオープンした地域共生ホーム「てまりの華」は、閑静な住宅街の中にあります。「いらっしやいませ」と職員の方に、「こんにちは」と走り回っていた子どもたちが迎えられ、中へ。リビングでは、高齢の方々がソファでくつろぎ、壁掛けの大型モニターからは懐かしい歌がBGMのように流れています。時計の針は午後2時を回ったところ。放課後等デイサービスを利用している子どもたちが学校の授業を終え直行したら、もつとにぎやかになるそうです。



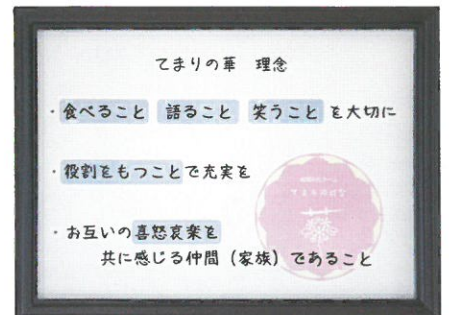
「てまりの華」のリーダー 渡邊 譲さん

少子高齢化が進む中、福祉制度の「縦割り」の支援の見直しと、地域が抱える諸問題に対応していくため、国を挙げて地域共生社会の実現に取り組んでいます。が、「てまりの華」は、地域に根を下ろし連携を強め、共生の実を着実に結んでいます。

富山型デイサービスを北海道で実現

「てまりの華」を率いるのは、株式会社ライズリンク代表取締役の渡邊譲さん(48)。職員にも利用者にも「社長」と呼ばれ、幼い利用者は社長に抱っ

こされると安心し、少し年齢がいくと外出に同伴すること。自閉症と診断されている子どももいれば、アスペルガー症候群と診断されている子どももいます。さまざまな人と出会う中で、自分が「こんにちは」と挨拶することで、その場が和むことがわかり、自信をつけた子どももいるそうです。渡邊さんは、老人ホーム勤務などを経て、2013年、江別市内に高齢者向けのデイサービスセンター「雪の華」を開設。富山型デイサービス(コラム参照)を北海道でも実現しようと考え、行政の福祉



玄関に掲げたモットー





庭先で職員と共に花を摘んだり、遊んだり

関係部署に掛け合い、共に情報を集め勉強し、「てまりの華」開設にこぎ着けました。「社会には、さまざまな人がいます。赤ちゃんから高齢者まで、障がいのある・なし関係なく、居場所づくりをしたいと、ずっと考えてきました。事業所を開設できる建物を探していたところ、自宅の隣の家が壊されると聞いてもつたいないと思いましたが、それが「ここです」と渡邊さん。

### 年代も個性もいろいろ 交流が生む相乗効果

築50年の木造2階建ての民家を、通所事業所として必要最低限改修。壁にも柱にも廊下にも歳月を刻む古い家は、「落ち着く」「自分の家のよう」とすこぶる好評です。

通常、デイサービスを利用しようとするば、高齢者であれば要介護認定、要支援認定、障がいのある子どもであれば、障

害児通所支援受給者証が必要。です。「てまりの華」では、法によって定める福祉サービスの対象とならない人も気軽に利用できるよう、「自費利用」（半日1500円、一日2500円）も設けています。

オープンして2年半。あらゆることを想定してケア体制を整えてきましたが、想定外のこと。最も意外だったのは、男性の利用者が多いこと。しかも、なかなかのイク（育）メン。なのだそう。

「世の男性の中には、じいさん、ばあさんばかりで、おもしろくねえ」とか言って、デイサービスを避ける人、結構多いんです。てまりの華では、子どもたちが、じゃれついたり、話し掛けてきたりします。そうした中で相性のいい子と出会い、来る楽しみを見つけた方がいらつしやいます。

また、元教員の男性の利用者さんで、認知症ではあるんだけど、子どもを遊ばせるのが上手な方がいて、遊びを覚えることで、その子のコミュニケーション力が高まるなど、いろいろな年代、いろいろな個性の交流による相乗効果が現れています」と渡邊さん。

週1回通所しているOさん



古い民家を改修した「てまりの華」には庭があり、植物も多彩

（90・女性）は、「てまりの華」のにぎやかな雰囲気、最初は戸惑ったそう。「職員の方に、織り機を使う」さをり織りを習ってからは、ここに来るのが楽しくなりました。丸1年経ち、子どもや若い人から、エネルギーをもらっています」とOさん。

ひ孫のような友人を作った男性も、さをり織りと出会ったOさんも、新たな「生きがい空間」を見つけたと言えるでしょう。

渡邊さんの次なる目標は、「在宅で暮らすための核となる場を作ること」。ショートステイ、デイサービス、訪問看護などを行う「共生型の看護小規模多機能型ホーム」のオープンを目指し、東奔西走が続きます。

### 地域共生ホーム「てまりの華」

江別市元江別本町9-18 TEL.011-398-8228

民家を改修した建物で、地域密着型通所介護・第1号通所サービス、児童発達支援・放課後等デイサービスを実施。2016年に開設し、現在、登録利用者は高齢者約25人、子ども約30人。利用曜日は月～土曜日および祝日。

### 富山型デイサービスとは…

富山県の3人の看護師が、家庭的な雰囲気のもとで、ケアを必要とする人たちの在宅を支えるサービスを提供しようと、1993年にデイサービス事業所を開設したのが始まり。民家を改修した建物で、対象者を限定せずにデイサービスを提供する手法は、縦割りの福祉にはない新しい形の福祉サービスとして注目を集め、今日に至る。

公益財団法人

# 「ノーマライゼーション住宅財団」の活動を紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。詳しくは当財団（2頁参照）へお問い合わせください。

当財団の詳細につきましては、ホームページ（<http://normalize.or.jp/>）をご覧ください。

## ① 助成金により福祉住宅の建築を支援しています

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対して助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰いたします（小誌46号16頁参照）。

審査は大学教授、一級建築士、プロダクトデザイナーなど、建築・福祉に造詣が深い有識者により行われます。本年度も下欄要項の通り募集しております。どうぞご応募ください。

## ② 福祉住宅建築助成実例集『ふれあい』を発行しています

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られていて、福祉住宅の新築・リフォームを考えている方などにお役立っていただいております。

平成30年8月に通巻29号発行。バックナンバーにつきましてはお問い合わせください。また、平成22年以降の主だった事例をまとめた『ふれあい総集編Ⅱ』を昨年12月に発行しました。ご希望の方へ進呈いたします。

暮らしやすい住まいづくりに  
助成金給付!

## 平成30年福祉住宅建築助成 応募要項

応募期間 平成30年5月1日～平成30年11月30日 締め切り間近

対象 福祉住宅や福祉小規模集合住宅として  
新築またはリフォームした建築主

助成金 一件あたり5万円から最高30万円まで  
ただし、総額300万円の範囲内

応募方法 設計士、施工会社、医療・介護関係者などの  
アドバイスを含め、福祉住宅として工夫・配慮した点  
などを当財団所定の申請書に記入し提出。（申請  
書は当財団ホームページからダウンロード）

審査 当財団委嘱の有識者による審査委員会にて選考

主催 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後援 北海道、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、  
札幌市、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、  
北海道デザイン協議会

応募先 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団  
〒060-0042  
札幌市中央区大通西16丁目2-3  
ルーブル16 9階  
TEL.011-613-7551  
FAX.011-612-8431  
URL <http://normalize.or.jp/>

ノーマライゼーション住宅財団

[目的]

ノーマライゼーションの理念に基づき  
高齢者や障がい者が安全で安心して  
快適に暮らせる住生活環境の  
整備・向上を通して、すべての人が  
生きがいをもって生活できる社会づくりと  
社会福祉の増進に寄与

\*ノーマライゼーションとは：  
高齢者や障がい者も社会で共に暮らし、  
共に生きることがノーマル(正常)である、  
という考え方

[事業]

福祉住宅の建築に関する  
助成及び情報提供事業

- ① 助成金による福祉住宅  
建築支援
- ② 福祉住宅建築助成  
実例集「ふれあい」発行



ノーマライゼーション理念の  
普及啓発事業

- ③ 広報誌  
ウィズ ライフ  
『WITH LIFE ～共に生きる』  
発行
- ④ 小中学生による「安全・快適  
アイデア」コンテスト
- ⑤ 福祉事情に関する情報収集  
及び提供



[対象]

建築系・福祉系  
教育研究機関

地方自治体  
建築部門

福祉住宅  
施工会社

福祉住宅  
建築主

一般市民

福祉団体

社会福祉  
協議会

地方自治体  
福祉部門

小中学生  
学校教員

社会福祉の増進に寄与  
ノーマライゼーションの定着

③ 広報誌『WITH LIFE』共に  
生きる』を発行しています

「生涯、快適に暮らしたい」をテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

原則年2回刊、地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配付されています。

平成30年11月、本号、通巻48号発行。パツクナンバーにつきましては当財団までお問い合わせください

④ 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活できるための、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

有識者の審査により選考された入賞作品は小誌『WITH LIFE』に掲載(47号参照)、また、さっぽろ地下街オーロラプラザにて展示(来年1月12日～14日)。当財団ホームページでもご覧いただけます。

なお、当事業は長年の実績が評価され、昨年「第一回北海道デザインアワード」において北海道デザイン協議会賞を受賞しました。

■ 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト応募要項(次回予定)

【応募資格】小・中学生の皆さん

【規格】画用紙(八つ切り)。画材は自由

【募集期間】来年6月1日～10月31日

【応募方法】一人一点。所定の応募票(当財団ホームページからダウンロード)に必要な事項を記入し、作品の裏に添付

【賞】最優秀賞一点、優秀賞三点、優良賞五点、佳作十点

【作品送付・問合せ先】当財団へ(2頁参照)

⑤ 福祉事情に関する情報収集及び提供  
をしています

有識者や福祉関係者に呼び掛け、国内外の福祉施設や福祉事情を視察し、小誌『WITH LIFE』でレポートを発表、また報告集を発行しています。最新は昨年11月実施の「京都・大阪・奈良福祉視察研修」報告集です(無料)。ご希望の方はご連絡ください。

次回視察研修は、11月19日～25日に「ドイツ」を予定しています(締切済)。



生涯、快適に暮らしたい。